不足スキル＆未解決問題のアセスメント (Rev. 11-12-12)

子どもの名前: _____　　日付: _____

使い方: “不足スキルと未解決問題のアセスメント (ALSUP)”は、単独で用いるチェックリストや評価尺度というよりは、ケースを話し合う際の指針（ガイドライン）として使えるようにできています。対象となる子どもや若者に見られる、不足スキルと未解決問題を特定するために使うものです。以下の不足スキルのリストを見ていき、当てはまればチェックを入れます。その上で（次の項目に移る前に）、その不足スキルが問題となる、その子どもにとって期待に応えるのが困難な状況（未解決問題）を特定します。終わりの方に、未解決問題の例の一部を記しています。

不足スキル

__ 切り替えること、ある発想や課題からほかのものに移ることの難しさ
__ 筋の通った、あるいは決められた順序でものごとに取り組むことの難しさ
__ 困難だったり、つまらない課題をやり続けることの難しさ
__ 時間感覚の乏しさ
__ 集中力を維持することの難しさ
__ 行動の結果や成りゆきを予測することの難しさ（衝動的）
__ 問題に対する様々な解決法を考えることの難しさ
__ 心配ごとや自分が必要なこと、自分の考えを言葉で表現することの難しさ
__ 言われていることを理解することの難しさ
__ 論理的に考えるべく、欲求不満に対する感情的反応をコントロールすることの難しさ
__ 問題解決や欲求不満に対する許容範囲を狭めてしまう、慢性的なイライラや不安感
__ “灰色の部分”を見ることの難しさ／かたく、何でも文字通りに捉えてしまう、“白か黒か”思考
__ ルールやお決まりの方法から外れることの難しさ
__ 予測不能なこと、あいまいなこと、不確かなこと、目新しいことに対処することの難しさ
__ 当初の考え、計画、解決法を変更することの難しさ
__ 活動計画の変更につながりうる、状況的要因を考慮に入れることの難しさ
__ 柔軟性に欠けた、正確でない解釈／認知の歪み、または偏り（例：「みんなが私をいじめる」「誰も僕のこと好きじゃない」「君はいつも僕のせいにする」「不公平だ」「私はバカなんだ」）
__ 社会的手がかり（対人場面で見られるサイン）やニュアンスに注意を向け、正しく解釈することの難しさ
__ 会話を始めること、集団に入っていくこと、人とつき合うことの難しさ／その他の基本的な社会的スキル
__ 適切なやり方で、人の注意をひくことの難しさ
__ 自分の行動が人にどんな影響を与えるのかを理解することの難しさ
__ 共感したり、相手のものの見方や視点を理解することの難しさ
__ 自分が人にどのように見られ、どう理解されているかを認識することの難しさ
__ 感覚運動の難しさ

未解決問題

未解決問題の手引き：未解決問題とは、子どもにとって期待に応えるのが困難な状況のこと。これには、不適応行動（叩く、唾を吐く、叫ぶなど）は含まれない。また、大人の説明や解釈が入らないこと、“ひとまとめ”にせず、“小分け”して書くこと、具体的であること、が必要。

©Ross W. Greene, Ph.D., 2012

家庭で：

朝、学校に遅れないように起床することの難しさ／宿題を始めたり、仕上げたりすることの難しさ（課題を特定する）／夜、ゲームをやめて、寝る準備をすることの難しさ／外で遊んでいる時、夕飯のために家の中に入ることの難しさ／学校が終わってから、どのテレビ番組を見るかについて、兄（弟）の意見に賛成にすることの難しさ／靴下の縫い目の感触に慣れることの難しさ／寝る前に歯を磨くことの難しさ／姉の寝室に入らないようにすることの難しさ／寝室をきれいにしておくことの難しさ／夕飯後、テーブルの上を片づけることの難しさ

学校で：

特別活動の時間から算数の時間に切り替えることの難しさ／グループ活動の時間に、カイルの隣に座っていることの難しさ／スクールバスの中での社会科研究の時、手を挙げることの難しさ／休み時間に、バスケットボールで負けた時の対処の難しさ

©Ross W. Greene, Ph.D., 2012

プラン B フローチャート (7-12-10)

子どもの名前: _____ 日付: _____

未解決問題 #1)	未解決問題 #2)	未解決問題 #3)
プラン B を主導する大人	プラン B を主導する大人	プラン B を主導する大人
特定した子どもの懸念 【共感ステップ】 日付	特定した子どもの懸念 【共感ステップ】 日付	特定した子どもの懸念 【共感ステップ】 日付
特定した大人の懸念 【問題定義ステップ】 日付	特定した大人の懸念 【問題定義ステップ】 日付	特定した大人の懸念 【問題定義ステップ】 日付
合意した解決法 【提案ステップ】 日付	合意した解決法 【提案ステップ】 日付	合意した解決法 【提案ステップ】 日付
問題は解決したか？ はい ／ いいえ 【コメント】 日付	問題は解決したか？ はい ／ いいえ 【コメント】 日付	問題は解決したか？ はい ／ いいえ 【コメント】 日付

Lives in the Balance /www.livesinthebalance.org/ © Ross W. Greene, Ph. D.

プランＢ　手引き

共感ステップ

何をするか／目的：

これから話し合う未解決問題についての、子どもの懸念や見方についての情報を集め、しっかりと理解する。

どう言えばよいか：

最初の質問（中立的な観察）：

「....（未解決問題を入れる）のように見えるけど、どうしたのかな？」

情報の掘り起こし：

通常、リフレクティブ・リスニングと明確化の質問、未解決問題（いつ、どこで、誰が、何を）についての情報収集、未解決問題の最中に子どもが何を考えているのか、なぜ、ほかの時ではなくて、その状況で起きるのかについて、質問する。

ヒント：

— もし、次に何を言ったらいいかわからなかったり、もっと情報がほしかったり、子どもが言ったことで困惑したら、こんな風に言う。

「どうしてそうなのかな？」

「わからなくなっちゃったな」

「ちょっと考えさせてね」

「（先生は）ちゃんと理解できてないな」

「それについて、もっと話してくれる？」

— もし、子どもが話そうとしなかったり、「わからない」と言ったら、どうしてか考えてみる。

・その未解決問題は、挑発的な行動を含んでいたり、具体的でなかったり、大人の解釈が入っていたり、“小分け”せず、“ひとまとめ”になっていたのでは？

・緊急プランＢを使っているのでは？（事前プランＢではなく）

・プランＡを使っているのでは？

・子どもは本当にわからないのでは？

・子どもは問題をもっと細かく分けてほしいのでは？

考えるポイント：

「子どもの懸念や見方について、まだ理解していないことは何だろう？まだ納得できない点は何だろう？もっとよく理解するために何をきく必要があるだろう？」

してはいけないこと：

・共感ステップをとばす。

・子どもの懸念が何かを、もうわかっていると思い込み、共感ステップを形式的にしてしまう。

・共感ステップを急いでさっさと済ませてしまう。

・子どもの懸念や見方を完全に理解しないうちに、共感ステップを終えてしまう。

・もう解決法について話してしまう。

問題定義ステップ

何をするか／目的：

もう一方の人（多くは大人）の懸念を扱う。

どう言えばよいか：

「問題なのはね／私が心配しているのはね....（大人の懸念を入れる）」

ヒント：

たいていの大人の懸念は、次の２つのどちらかに当てはまる。

・その問題が、その子どもにどう影響するか

・その問題が、ほかの人にどう影響するか

考えるポイント：

「私の懸念は明確になっているだろうか？子どもは、私が言ったことを理解しているだろうか？」

してはいけないこと：

・もう解決法について話してしまう。

・説教したり、非難したり、小言を言ったり、皮肉（嫌み）を言うこと

提案ステップ

何をするか／目的：

現実的で（双方が合意したことを実行できる）、お互いが満足できる（双方の懸念を反映した）解決法について、ブレインストームで話し合う。

どう言えばよいか：

これまでの２つのステップで特定された懸念を再び位置づける。

通常、「何かよい方法はあるかなあ....」と始める。

ヒント：

・これまでの２つのステップで特定された懸念に、できるだけ忠実に沿うようにする。

・解決法を提案する機会をまず子どもに与えるのはいいアイデアだが、それを考え出すのはあくまでも協働作業である。

・出てきた解決法が、実際にうまくいく確率について考えてみるのもよい。確率が 60～70%より低いと思うなら、疑問に思っている点は何なのかを考え、それについて話し合う。

・このステップの終わりには、常に以下のことを確認し合う：もし、最初の解決法が、時間をかけてもうまくいかなかったら、プランＢにまた戻ること

考えるポイント：

「双方の懸念を正しく要約できているだろうか？合意したことを実行できるかどうか、２人で十分に考えただろうか？その解決法は、双方の懸念をしっかり反映しているだろうか？その解決法がうまくいく確率を、どの程度に見積もれるだろうか？」

してはいけないこと：

・このステップを急いでさっさと済ませてしまうこと

・“精巧な”解決法を前もって決めてから、このステップに入ること

・どちらかが実行できないような解決法を選んでしまうこと

・双方の懸念をよく反映していない解決法を選んでしまうこと